

熱中症対応

熱中症を疑う症状

発見者

- ※児童のそばから離れない
- ・教職員を呼ぶ
- ・質問をして**意識の有無**を確認する

意識なし

児童B

管理職

- ・それぞれの役割の確認及び指示
- 教職員B
- ・校内放送で人を集める
 - ・保護者に連絡
- 119番通報
応急手当

児童A

意識あり

管理職

- ・それぞれの役割の確認及び指示
- 教職員A
- ・症状や応急手当の時間などを記録する
 - ・保護者に連絡

脱衣と冷却

- ・涼しい場所へ避難し、衣服をゆるめて寝かせる
- ・救急車到着までの間、積極的に冷やす
- ・氷やアイスバックがあれば、頸部、脇の下、足の付け根などの大きな血管を冷やす

水分、塩分を補給する

- ・水分と塩分(スポーツドリンクや経口保水液など)を補給する
- ・熱痙攣の場合は、生理食塩水(0.9%)などの濃い目の食塩水を補給する

できる

水分摂取ができるか確認

できない

改善

改善しない

経過観察

病院へ搬送する

体を冷やししながら、設備や治療スタッフが整った集中治療のできる病院へ一刻も早く搬送する